

教職員評価と学校評価の概要（案）について

高校教育課

A 教職員評価	
<p>【基本理念】 教職員の資質向上に資することをとおして、学校の教育力の向上を図り、児童生徒の成長発達に寄与する評価制度とする。</p>	
① 自己申告による評価（業績評価）	② 給与査定等評価（能力評価）
<p>【概要】 教職員一人ひとりが自己の課題を的確に把握した上で設定した目標の達成に向けて、自主的・自立的に実践活動を行った結果について年度末に自己評価したものを校長が評価。（平成23年4月1日から）</p>	<p>【概要】 教職員の年間の活動全般への取り組みにおける「意欲」「実践力」「成果」について校長が評価。 （平成23年1月1日から）</p>
<p>【評価にあたり参考とするもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員の自己評価 ○管理職による日常的な行動観察（授業観察を含む） ○面談を通して収集した情報 ○評価補助者（副校長・教頭）からの情報 ○児童生徒、保護者、地域住民等からの情報 	<p>【評価にあたり参考とするもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○管理職による日常的な行動観察（授業観察を含む） ○自己申告による各教職員の評価

【あらたに参考とするもの】

- 教職員の各ステージに応じた能力やロールモデルとの比較
- 匿名性を担保した授業評価

B 学校評価	
<p>【目的】 各学校が自らの教育活動等の成果を不断に検証することにより、児童生徒がより良い学校生活を送れるよう学校運営の改善と発展を目指すために行う。</p>	
<p>現在実施されている学校評価</p>	
①（学校）自己評価	② 学校関係者評価
<p>【概要】 各学校の教職員が行う評価。児童生徒、保護者等を対象としたアンケート等を活用。平成16年度から実施。現在、すべての学校で実施中。</p>	<p>【概要】 保護者、地域住民等の学校関係者により構成された評価委員会等が行う評価。平成25年度の県内実施率小：98.9% 中：98.4% 特：94.7% 高全日制：90.5% 高定時制：87.0%</p>

【あらたに参考とするもの】

- 匿名性を担保した学校評価

【匿名性を担保した評価導入の目的】

児童生徒や保護者（学習者）が「学校づくり」により一層参画し、「開かれた学校」「風通しのよい学校」への取組がさらに推進されることを目指して、自由に意見表明できる匿名性を担保した評価を導入する。記名することで埋もれてしまう可能性のある率直な情報を拾い出して、授業改善や学校改善に役立てる。

匿名性を担保した評価の概要(案)

高校教育課

項目	匿名性を担保した授業評価	匿名性を担保した学校評価
評価者	学習者(生徒、保護者) ※小学校においては、学校評価の中で実施する。 ※中学校においては、評価者のあり方について、試行的に実施して研究する。 ※高等学校においては、学校の実情に応じて生徒だけで評価する場合もあり得る。	学習者(児童・生徒、保護者)
被評価者	授業を担当する教諭、助教諭、講師(中学校、高等学校)	校長(小学校、中学校、高等学校) 学級担任(小学校、中学校、高等学校)
評価項目	授業満足度(5段階評価)	学校満足度(5段階評価) ※授業(小)、学級経営、生徒指導等を含む。自由記述欄を設ける。
匿名性の担保と集計の方法(例)	① 家庭へ持ち帰り、生徒が保護者とともに匿名の評価シートへ記入する他、学活(中)・LHR(高)等の時間を活用して、生徒が匿名の評価票へ記入する。 ② 学級担任が匿名性に配慮しながら回収して、校内の担当係へ提出する。 ③ 担当係が集計する。 ④ 集計結果は本人と校長とで共有する。	① 匿名の評価シートを封筒に入れ、封をして学級担任へ提出する。 ② 校長が開封する。 ※必要に応じてPTA役員及び学校評議員に協力いただく。 ③ 管理職及び担当係が集計する。
評価の活用方法	○被評価者は、「評価・支援シート」の必須評価項目「A 学習指導」の自己評価(目標の達成状況)にあたり、授業評価の結果を参考とするデータとして活用する。 ○校長は、「評価・支援シート」の「A 学習指導」の要素評価(成果)において、授業評価の結果を参考とするデータとして活用する。 ※各校では、授業改善を図るための「授業アンケート」を実施するなどして改善点を分析し、校長との面談等を通して次年度の個人目標の設定へフィードバックさせることもできる。	○校長は「評価・支援シート」の自己申告項目の評価にあたり参考とするデータとして学校満足度評価を用いる。 ○学校運営の改善に生かすとともに、次年度の学校運営方針へ反映する。 ○校長と教職員との面談を通して、学級経営や部活動運営等の改善に役立てる。
評価シートのフォーマット	教育委員会で例を示す。 各校の実情に応じて適切に対応する。	教育委員会で例を示す。 各校の実情に応じて適切に対応する。
実施時期と回数	各校の実情に応じて適切に対応する。	各校の実情に応じて適切に対応する。

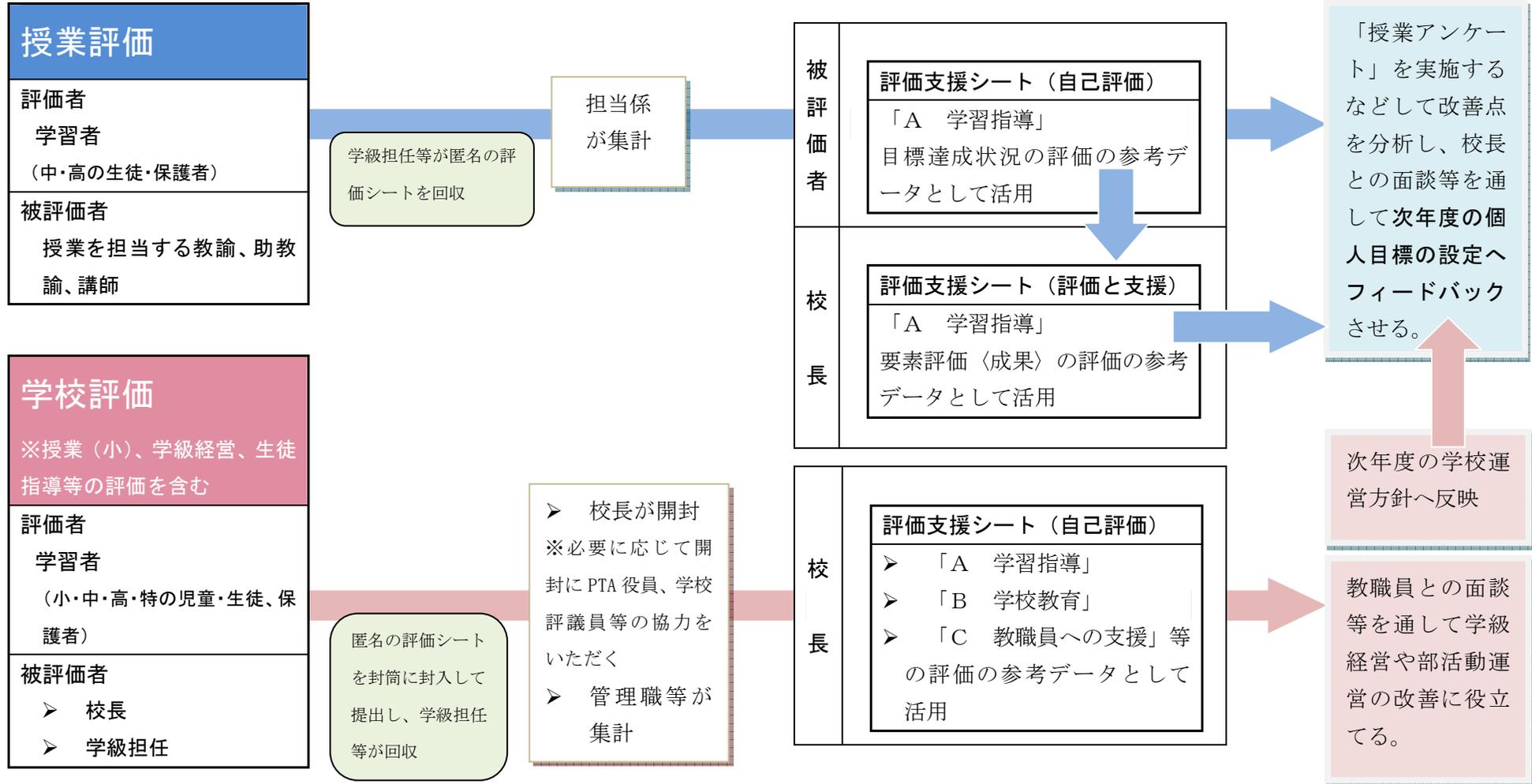
匿名性を担保した評価の概要【特別支援学校】(案)

高校教育課

項目	匿名性を担保した授業評価	匿名性を担保した学校評価
評価者	学習者(生徒、保護者) ※特別支援学校においては、学校評価の中で実施する。 ※ただし、特別支援学校中学部高等部において準ずる教育課程を履修している生徒を対象にして、評価者のあり方について、試行的に実施して研究する。 ※高等部においては、学校の実情に応じて生徒だけで評価する場合もあり得る。	学習者(児童・生徒、保護者)
被評価者	授業を担当する教諭、助教諭、講師 (準ずる教育課程を実施している中学部、高等部)	校長 学級担任(幼稚部、小学部、中学部、高等部 等)
評価項目	授業満足度(5段階評価)	学校満足度(5段階評価) ※授業、学級経営、生徒指導等を含む。自由記述欄を設ける。
匿名性の担保と集計の方法(例)	① 家庭へ持ち帰り、生徒が保護者とともに匿名の評価シートへ記入する他、学活(中)・LHR(高)等の時間を活用して、生徒が匿名の評価票へ記入する。 ② 学級担任が匿名性に配慮しながら回収して、校内の担当係へ提出する。 ③ 担当係が集計する。 ④ 集計結果は本人と校長とで共有する。	① 匿名の評価シートを封筒に入れ、封をして学級担任へ提出する。 ② 校長が開封する。 ※必要に応じてPTA役員及び学校評議員に協力いただく。 ③ 管理職及び担当係が集計する。
評価の活用方法	○被評価者は、「評価・支援シート」の必須評価項目「A 学習指導」の自己評価(目標の達成状況)にあたり、授業評価の結果を参考とするデータとして活用する。 ○校長は、「評価・支援シート」の「A 学習指導」の要素評価(成果)において、授業評価の結果を参考とするデータとして活用する。 ※各校では、授業改善を図るための「授業アンケート」を実施するなどして改善点を分析し、校長との面談等を通して次年度の個人目標の設定へフィードバックさせることもできる。	○校長は「評価・支援シート」の自己申告項目の評価にあたり参考とするデータとして学校満足度評価を用いる。 ○学校運営の改善に生かすとともに、次年度の学校運営方針へ反映する。 ○校長と教職員との面談を通して、学級経営や部活動運営等の改善に役立てる。
評価シートのフォーマット	教育委員会で例を示す。 各校の実情に応じて適切に対応する。	教育委員会で例を示す。 各校の実情に応じて適切に対応する。
実施時期と回数	各校の実情に応じて適切に対応する。	各校の実情に応じて適切に対応する。

匿名性を担保した学習者による評価活動の流れ(案)

高校教育課



匿名性を担保した評価の活用方法

評 価	被評価者	評価の活用方法
業績評価	小学校の学級担任 特別支援学校の学級担任	○匿名性を担保した学校評価（授業）の結果を被評価者の自己評価へ反映させる。 ○校長は、日常的な行動観察等の情報も踏まえ、面談を通して総合的に判断する。 ○評価シートの自由記述欄に記載された学習者の意見等を被評価者に伝えることで、改善に役立てる。
	中学校及び高等学校の教諭・助教諭・講師 準ずる教育課程を実施している特別支援学校中学部、高等部の教諭・助教諭・講師	○匿名性を担保した授業評価の結果を被評価者の自己評価へ反映させる。 ○校長は、授業観察等の情報も踏まえ、面談を通して総合的に判断する。 ○評価シートの自由記述欄に記載された学習者の意見等を被評価者に伝えることで、授業改善に役立てる。
学校評価	校長	○匿名性を担保した学校評価（学校運営）の結果を被評価者の自己評価へ反映させる。 ○教育長は、匿名性を担保した学校評価の結果や日常的な行動観察等の情報も踏まえ、教育長または教育長から委任された者との面談を通して総合的に判断する。 ○次年度の学校目標の設定へ、学校評価の結果を反映させる。
	教職員	○次年度の個人目標の設定へ、学校目標を反映させる。

以下の項目等については、有識者会議において委員から意見を伺い、今後の検討の方向性を確認する。フォローアップ委員会に報告するなどして検討の透明性を高めながら、事務局を中心に検討を進める。

業績評価及び能力評価の検討の方向性

評 価	検討の方向性
業績評価	現行制度を維持した上で、「広範に過ぎるC評価の点数の改善」という提言に沿ってC評価のレンジを狭める方向で検討する。
能力評価	現行制度を維持した上で、「評価項目において、責任感、服務規律の遵守、公正性など倫理に関する項目の位置付けの明確化、重視を図る」という提言に沿って検討する。

その他の事項の検討の方向性

検討事項	検討の方向性
教員評価の効率化と評価者の育成の検討	教頭の有する情報を活用するなどして評価の効率化を図るとともに、評価に関して校長と教頭とが意見交換すること等を通して、教頭の評価能力を高めること等を検討する。
校長の評価能力向上のための研修の充実、評価結果を必要に応じて研修や支援に結び付ける仕組みの構築の検討	研修を担当する関係機関と連携しながら検討する。
管理職評価のための委員会の設置と活用の検討	教育委員による学校訪問や、教育長または教育長から委任された者による校長面談を通して校長評価をおこなう現行の方法を、さらに充実させる方向で検討する。
地域住民等幅広い関係者を対象とした学校運営に対する包括的評価の検討	幅広い関係者を対象とした学校運営に対する意見を評価に取り入れることを、学校評議員制度や信州型コミュニティースクール創造事業等と関連させながら検討する。

